

国際部会（平成20年度第2回国際部会）議事録

日時：平成21年1月30日（金）10：30～12：00

場所：地盤工学会会議室

出席者：

古 関 部 長	○	内 田 理 事	○		
勝 見 部 員	×	小 宮 部 員	×	塚 本 部 員	×
中 野 部 員	×	ハザリカ部員	○	椋 木 部 員	×
				堤 部 部 員	○
				渡 部 部 員	×

○印出席、×印欠席

議事録：堤

<配布資料>

別紙—1：平成20年度第1回国際部会議事録（案）

別紙—2：IS 京都 2009（2009.5.25-27、京都）進捗状況

別紙—3：IS 東京 2009（2009.6.15-17、つくば）進捗状況

別紙—4：IS 東京 2008（2008.11.5-7、東京）開催報告

別紙—5：日韓地盤工学ワークショップ（2008.11.10-11、東京）開催報告

別紙—6：平成21年度国際部事業方針・事業計画（案）

別紙—7：第17回国際地盤工学会議 論文執筆ガイド

別紙—8：第4回国際地盤工学会世界若手技術者会議 関連資料

別紙—9：国際会議若手会員優秀論文賞 関連資料

別添資料（会議後回収）：第4回国際地盤工学会世界若手技術者会議審査結果、国際会議若手会員優秀論文賞審査結果

<議事>

《報告事項》

1. 平成20年7月理事会への報告（8月は休会）

報告事項 ①”MANUAL FOR ZONATION ON AREAS SUSCEPTIBLE TO RAIN-INDUCED SLOPE FAILURE”および”CASE HISTORIES OF POST-LIQUEFACTION REMEDIATION”在庫処分について

TC4・ATC3 国内委員会で作成した出版物について、同委員会より絶版にしてweb上で無料公開したいとの要請があった。売上高が発行費用を上回っているため、在庫処分することとした。

”MANUAL FOR ZONATION ON AREAS SUSCEPTIBLE TO RAIN-INDUCED SLOPE FAILURE”：平成9年出版、在庫数38部

”CASE HISTORIES OF POST-LIQUEFACTION REMEDIATION”：平成13年出版、在庫数110部

②平成20年度国際委員会構成案

③Urban Geo-informatics (ATC10) 国内委員会委員の追加

若林真由美 氏（基礎地盤コンサルタンツ）、山口 亮 氏（損害保険料率算出機構）

予備審議事項、審議事項 なし

2. 平成20年9月理事会への報告

報告事項 ①次期(2009-2013年)国際地盤工学会アジア地域副会長候補者の推薦について
アジア地域からは中国のチェン教授を推薦することが決定

②国際講演会の開催

共催:地盤工学会関東支部/日時:2008年11月10日16:30-18:00/場所:東京
大学工学部/講師:アスカー・ズスプベコフ教授(カザフスタン)/講演内容:カ
ザフスタン共和国の現況;自然条件と近年の経済発展、カザフスタン共和国におけ
る地盤工学の現況/参加費:無料(資料代を徴収する可能性あり)

予備審議事項、審議事項 なし

3. 平成20年10月理事会への報告

報告事項 ①日韓地盤工学ワークショップの開催

共催:韓国地盤工学会/開催日:2008年11月10-11日(11日は現場見学)/場所:
JGS会館会議室/テーマ:Geotechnics in Urban Areas(都市地域における地盤工学)
/参加費:正・国際会員20000円、学生会員12000円

②Geotechnics of Pavement(TC3)国内委員会委員の追加

石垣 勉 氏(株NIPPOコーポレーション技術研究所)

予備審議事項 なし

審議事項 ①日韓学術協定の締結について(11月10日JGS会館にて調印式予定)

4. 平成20年11月理事会への報告(12月は休会)

報告事項、予備審議事項、審議事項 なし

5. 国際会員メーリングリスト送信履歴(2008.7.1-2009.1.31)

7/15 論文概要提出の締切(IS-Tokyo2009)

7/16 国際ワークショップ「地盤材料の室内試験に関する最新動向」開催のお知らせ

7/17 特別講演会「Richard Jardine教授およびHerve Di Benedetto教授講演会」開催のお知らせ

9/5 IS-Kyoto2009 論文概要募集のご案内

9/9 国際会議(2009.7.22-25、中国)のお知らせ

9/17 シンポジウム(2008.10.6、東京工業大学)のお知らせ

9/17 IS-Kyoto2009 論文概要募集のご案内

9/22 論文概要提出締切日の延期(IS-Kyoto2009)

10/7 ISSMGE News Bulletin September 2008 発刊のお知らせ

10/8 「アスカー・ズスプベコフ教授による講演会」開催のお知らせ

10/9 「第2回日韓地盤工学ワークショップ」開催のお知らせ

12/3 国際会議(2009.5.15、ドイツ)のお知らせ

12/4 国際地盤工学会 若手技術者会議(ISSMGE:iYGEC2009)への派遣者募集

1/13 ISSMGE News Bulletin December 2008 発刊のお知らせ

1/20 国際会議「地震地盤工学における性能設計に関する国際会議 -事例から実務まで-
(IS-Tokyo2009)」参加登録開始のご案内

1/21 国際会議(2009.12.9-11、シンガポール)のお知らせ

1/26 国際会議「GeoShanghai International Conference 2010(第2回ジオシャンハイ国際会議)」
アブストラクト募集のご案内

6. IS 等進捗状況

IS 京都 2009 (2009.5.25-27、京都) : 論文提出がほぼ終了した状況で、論文採択数は約 90 件。論文集については発行に向けて最終原稿を取りまとめ中。レジストレーションも開始し受付中。アーリーレジストレーションは 2 月末まで。別紙 2 の Accompanying persons の登録料は 2009 年 2 月 28 日までの割引価格を 15000 円、それ以降の通常価格を 20000 円に修正。

【別紙 - 2】

IS 岐阜 2009 (2009.6.11-12、岐阜) : 一般投稿 62 編のうち 58 編のフルペーパーが提出され、これらの査読は 2/3 に終了予定で、2 月末の修正原稿の提出に引続きフォーマットの最終確認へ移る予定。最終的には、Invited を含め 70 編程度の論文数となる予定。レジストレーションは来月から開始予定で、学生や同伴者のほか JGS 会員と ISSMGE 会員に割引を適用する予定 (1/23 の会議で決定)。参加人員は 150 名程度を目指しており、今後はその確保が課題。

IS 東京 2009 (2009.6.15-17、つくば) : 為替レートが有利なうちに、論文集の印刷を早めに注文したいとの提案があった。最終的な決算が赤字にならないことを前提に理事会承認を受けた。

【別紙 - 3】

7. IS 東京 2008 (2008.11.5-7、東京) 開催報告 【別紙 - 4】

盛況で収支も若干の利益を得たとの報告が古関部長よりなされた。

8. 日韓地盤工学ワークショップ (2008.11.10-11、東京) 開催報告 【別紙 - 5】

日韓参加者数のバランスもよく、収支に若干の利益が出たため、これを日米環境 WS の論文集費用に充てることになった (古関部長より報告)。

9. 「実務利用を目指すマイクロジオメカニクス」に関するシンポジウム開催報告

主催 : TC35 国内委員会 / 開催日 : 20.11.26-27 / 場所 : JGS 会館 / 参加者数 : 54 名 / 登録論文数 : 18 編

10. 国際地盤工学会の次期会長・副会長選挙について

会長は北米からブリオア教授、南米からハチ教授が推薦されており、アレキサンドリア会議中に投票が行われる。アジア地区の副会長は中国のチェン教授に決まった。

11. HP 関係

和文ホームページがリニューアルされ、国際部のページでは掲載順、すでに掲載されていたデータの更新など、微修正を依頼。現在修正作業中。

12. 来年度の国際部予算案と活動方針 【別紙 - 6】

IS 北海道は TC3 (Geotechnics of pavement) ,IS 金沢は TC18 (Deep foundations) が主催。

二国間協定に基づく交流の今後の予定は以下のとおり。

日中 : 2010 年春に沖縄で WS

日韓 : 2~3 年後に韓国で WS

日米 : 環境系 WS を日本で実施、新規テーマの WS を実施、などの可能性があり、今後調整

13. 外国人名誉会員の推薦

12/2 各部、各支部長宛に推薦依頼送付、1/6 締切→推薦なし

14. その他

第 6 回アジア地域若手技術者会議への代表者の派遣は、テロの可能性を考慮して中止となった。

TC, ATC の競争予算は、TC3, TC4, ATC8 に配分されることが決定。いずれもまだ実行されていないので、事務局 (長尾) がリマインドのために連絡を取るようになった。

2010 年開催予定の日中 WS は古関部長が準備を進めており、現在会場を選定中。会場費確保を目的とした学振などの助成金への応募の際には、論文実績などで部員からの協力を得たいとの依頼が

古関部長よりなされた。

《予備審議事項》

なし

《審議事項》

1. 第 17 回国際地盤工学会議（2009.10.5-9、エジプト）本論文チェック 【別紙－ 7】
未提出の 1 編を残して本論文のフォーマットチェックがほぼ完了。国内の審査を受けた概要と、今回提出された本論文とで著者の順番や著者数が変わっている論文があったが、主著者の変更は認めないこととなった。フォーマットチェックを受けた論文は今後著者に返送され、最終原稿とコピーライトに関する文書の提出を期日どおりに実施予定。
主著者に関する当事者への連絡、論文の返送などは事務局（長尾）が実施。
2. 第 4 回国際地盤工学会世界若手技術者会議（2009.10.3-6、エジプト）審査結果 【別添資料】【別紙－ 8】
審査結果によると 2 名が 2 位でほぼ同点であった。予算にも余裕があるため、派遣者を増やす交渉を古関部長が行うことになった。認められれば結果が上位の 3 名、否認されれば上位 2 名が参加者として決定。
3. 国際会議若手会員優秀論文賞審査結果 【別添資料】【別紙－ 9】
候補論文全 8 編のうち 7 編を受賞論文として決定した。
4. Young Member Award 代表の選考
前回の慣例（最近のアジア地域会議と国際地盤工学会議の両方の投稿論文で部門別の最高得点を得た若手）に基づき、中島進氏（土研）を候補者として決定した。中島氏はコルカタの第 13 回アジア地域会議で若手優秀論文賞受賞、アレキサンドリアの第 17 回国際地盤工学会議では同点でその部門の若手の最高得点者。
5. その他
海外ジャーナル（米・英など）の購入・海外からの寄贈本等について
これまでは学会図書室のスペースが足りなくなるたびに廃棄されていたこと、図書室での利用者も（具体的には分からないが）とりわけ多くはないことから、今後も購入すべきかについて事務局より議題の提案があった。海外ジャーナルは今後も購入し、場所を確保して廃棄せずに保管すること（例えば学会から最も近い**大学等**に管理を委託、学会員にはそこで閲覧できることを案内）、寄贈本は適宜学会誌などで会員に引き取り手の募集をかけるなどして極力廃棄しないようにすることが国際部の意見として提案された。

* 国際部から提出する 3 月理事会の議題（審議事項、予備審議事項、報告事項）は事務局で準備